

1 外国人傷病者対応

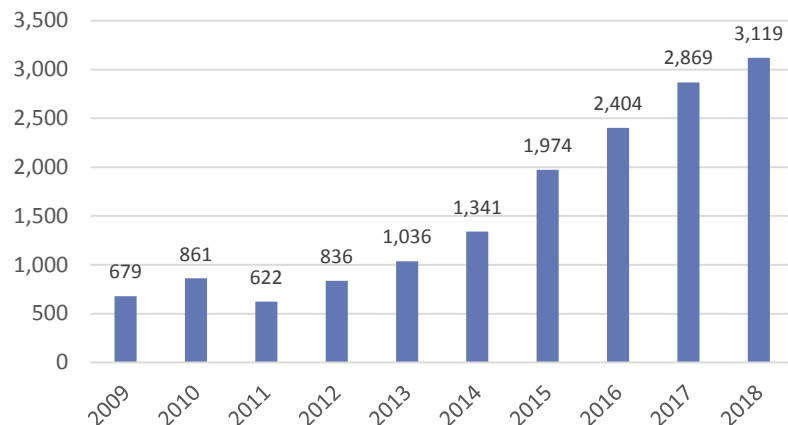
1 外国人傷病者対応

(1) 検討の背景

① 訪日外国人の増加

- 平成30年の訪日外国人旅行者数は、3,119万人(暫定値)と、初めて3,000万人を超え、今後も、日本国内での国際的大規模イベント(2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)など)の開催により、更なる増加が見込まれている。
(出典:日本政府観光局JNTO「訪日外客数」)

(万人) 訪日外国人旅行者数の推移



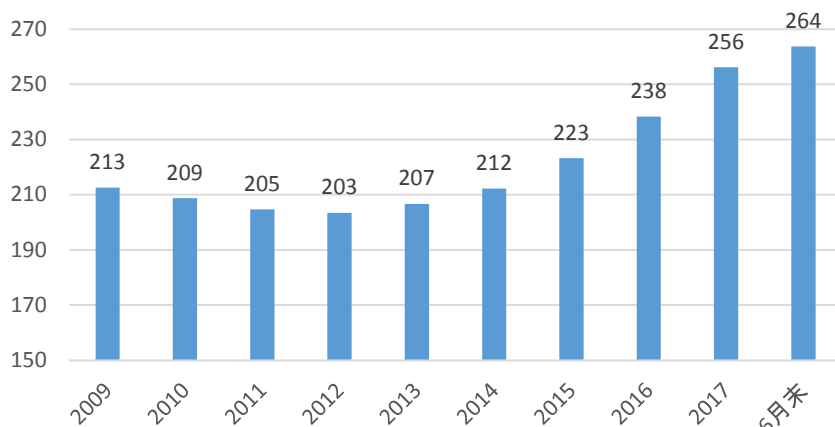
出典:日本政府観光局 Source:Japan National Tourism Organization

② 在留外国人の増加

- 平成30年6月末現在における在留外国人数は、263万7,251人で、前年末に比べ7万5,403人(2.9%)増加となり過去最高となった。

また、平成31年4月に出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律が施行されたことに伴い、特定技能外国人の受入れ見込み数(5年間の最大)の合計は、34万5,150人とされている。

(万人) 在留外国人数の推移(総数)



出典:法務省入国管理局

1 外国人傷病者対応

(2) これまでの取組状況

① 平成26年度救急業務のあり方に関する検討会

- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた救急業務の課題及びその対応の方向性を、各都道府県及び消防本部に対するアンケート調査を通じて整理することとした。

オリンピックに向け、救急業務に関する課題として考えられることとして多く挙げられたもの

○ 外国人対応・コミュニケーションの問題

〈以下の項目は大規模イベントにおける日本人対応も含む〉

- 熱中症対策の強化
- 多数傷病者発生時の対応
- 感染症対策

課題解決に向けて、消防庁に期待する役割として多く挙げられたもの

- コミュニケーションシートやアプリの作成
- 電話等による通訳サービスの整備
- 救急業務におけるICT導入への財政支援
- モデルケース・海外での対応事例の紹介等



〈平成26年度救急業務のあり方に関する検討会のまとめ〉 ※抜粋

- 外国語対応・コミュニケーションの問題について、一定の課題整理を行い、考える対応策について方向性を示した上で、平成27年度において本格的な検討を開始することとした。

1 外国人傷病者対応

(2) これまでの取組状況

② 平成27年度救急業務のあり方に関する検討会

➤ 平成26年度救急業務のあり方に関する検討会で挙げられた課題への対応策について、実態調査等を踏まえ、各消防本部において実施可能な具体的方策を提示した。

検討内容	具体的方策及び事例の紹介	検討結果
○ 多言語コミュニケーションを支援するシステムの取組状況	➤ 消防本部による多言語コミュニケーションに関する取組 ➤ 多言語コミュニケーション等を支援するシステムの開発 ➤ 訪日外国人のための救急車利用ガイド(英語版)の作成	各消防本部は <u>多言語コミュニケーションツールや多言語音声翻訳システム、今回新たに作成した訪日外国人のため救急車利用ガイド(英語版)などの取組を参考としつつ、地域の実情にあわせ検討することが期待される。</u>
○ 大規模イベント開催時における多数傷病者発生時の備え	➤ 第23回世界スカウトジャンボリーを参考に大規模イベント時の事例紹介	<u>イベントの計画段階から、イベント主催者や行政の担当部局等に対して熱中症対策を求めていく必要がある。また、感染症など災害発生時に迅速な活動を可能とするために、事前のマニュアル策定、関係機関間での協定締結等を進めていく必要がある。</u>
○ 外国人と接する機会の多い市民を対象とした応急手当の普及	➤ 外国人に配慮した熱中症対応 ➤ 応急手当講習の効果的な普及 ➤ 外国人との円滑なコミュニケーション	外国人を含めた多くの方に応急手当講習を受講してもらうには、効果的な普及方策をとる必要があり、市長部局の観光担当部局、スポーツ振興担当部局等と適切に連携することが求められる。
○ 諸外国におけるオリンピック等の大規模イベント時の外国人に対する救急業務の状況	➤ 諸外国における大規模イベントの事例紹介 ・ロンドンオリンピック・パラリンピック ・北京オリンピック・パラリンピック ・シドニーオリンピック・パラリンピック ・ボストンマラソン ・ベルリンマラソン	<u>医療救護所等の救護施設を設置するなど万全の医療体制を構築すること等により、消防機関への救急要請が抑制されていることがわかった。また、危機管理対策として救急車の増台や救急隊員の増員などの消防機関側の対策に加え、オリンピック指定病院の指定や競技場周辺の医療救護所の設置など医療機関側の対策も重要である。</u>

1 外国人傷病者対応

(2) これまでの取組状況

③ 救急現場等で多言語コミュニケーションを支援するシステム

○ 多言語音声翻訳アプリ「救急ボイストラ」

- 外国語による音声と画面の文字によりコミュニケーションが可能。
- 救急現場で使用頻度が高い会話の内容を46の「定型文」として登録。
- 定型文対応言語は15種類。
- 728本部中376本部(51.6%)が導入。
(平成30年12月末現在)

○ 電話通訳センターを介した三者間同時通訳

- 外国人からの119番通報時、外国人のいる救急現場での活動時等に、電話通訳センターを介して、コミュニケーションが可能。
- 主要な言語において、24時間365日対応
- 728本部中298本部(40.9%)が導入。
(平成30年12月末現在)

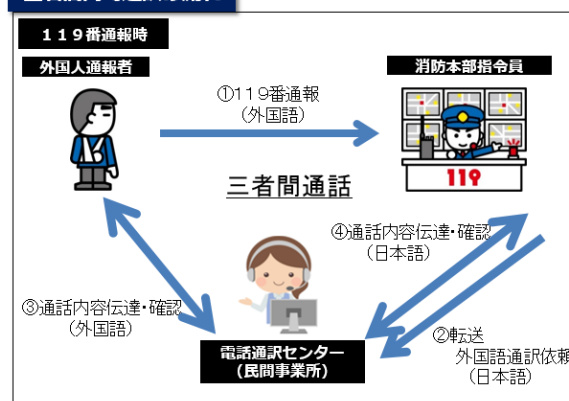
〈救急ボイストラの画面〉



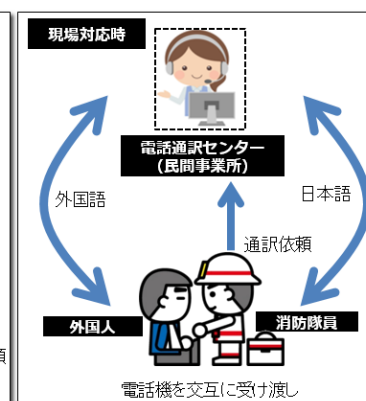
〈使用例〉



三者間同時通訳の流れ



現場対応時



1 外国人傷病者対応

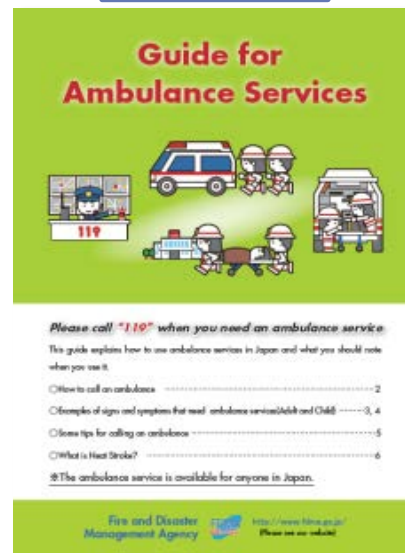
(2) これまでの取組状況

④ 救急車の適正利用広報等において使用するツール

○ 訪日外国人のための「救急車利用ガイド」

- 平成27年3月に訪日外国人のための救急車利用ガイド(英語版)を作成。
- 平成29年3月に救急車利用ガイド(多言語版:6言語追加)を作成。
- 救急車の利用方法のほかに、熱中症予防のポイントや応急手当等も記載。
- 平成31年3月から外国人旅行者向け災害時情報提供アプリ「Safety tips」にも掲載。

表紙及び目次



救急車利用方法の解説



⑤ その他各消防本部における取組

- 英語対応救急隊
- コミュニケーションボードや情報収集シート
- その他のタブレット端末等の活用

等

1 外国人傷病者対応

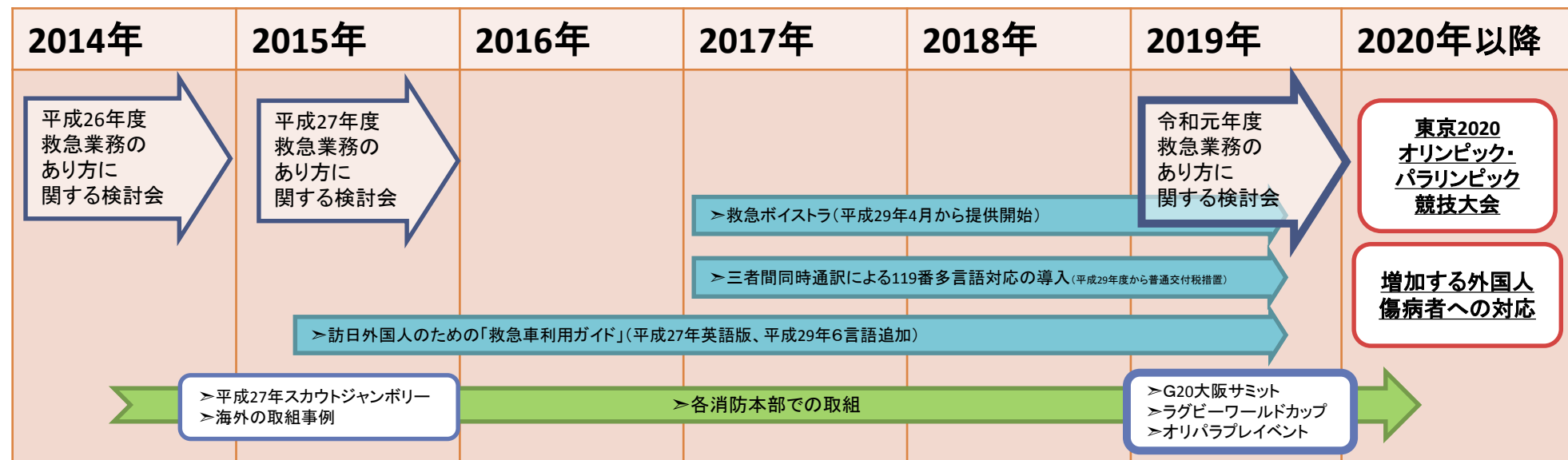
(3) 今年度の取組

① 検討の目的

○ これまでの状況

➤ 平成26年度・平成27年度の救急業務のあり方検討会の中で、外国人傷病者対応の課題及び具体的方策並びに国際的大規模イベントでの取組事例の紹介を行ってきた。

○ 救急現場での外国人傷病者対応(多言語音声翻訳アプリ「救急ボイストラ」や電話通訳センターを介した三者同時通訳など)の普及が進んでいる。



○ 目的

○ 外国人傷病者対応能力向上に向けて、今年度開催される国際的大規模イベント(G20大阪サミットやラグビーワールドカップ2019日本大会等)での課題や好事例を把握する。

○ 今後、更に増えていく訪日・在留外国人への救急現場での対応策として、これまでの救急業務のあり方に関する検討会や消防庁から示されている方策の取組状況や各消防本部独自の先進的な取組を把握する。

1 外国人傷病者対応

(3) 今年度の取組

② 訪日・在留外国人の増加に伴う外国人傷病者の対応に関する課題の整理

- 救急現場での外国人傷病者へのコミュニケーション
- 外国人傷病者対応時の医療機関の選定
- 訪日外国人に対する救急車の適正利用の周知
- 国際的大規模イベントにおける外国人傷病者の対応



等



③ 先進的な取組の把握

- 多言語音声翻訳アプリ「救急ボイストラ」や三者間同時通訳の活用状況及び奏功事例
- 訪日・在留外国人の多い地域における外国人傷病者への先進的な取組事例
- 訪日・在留外国人に向けた救急車の適正利用などの効果的な広報事例



等

1 外国人傷病者対応

(4) スケジュール

連絡会開催予定表

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外国人傷病者 対応の現状 と課題			救急 業務あり方に関する 検討会（第1回）	第1回連絡会		課題の整理 取組事例の 把握	救急 業務あり方に関する 検討会（第2回）	第2回連絡会	救急 業務あり方に関する 検討会（第3回）	報告書発出
				ラグビーワールドカップ （9/20～11/2）						